

2026

信大寄附講義

松本市の魅力発見ゼミ ー松本のアンバサダーになるうー

自分が気づいた松本の魅力

街の温度と、山の風

松本の街を歩いていると、自然と自分の呼吸が深くなるのを感じる。それは単に空気が澄んでいるからではなく、この街に流れる独自の時間が、私の歩幅にずっと寄り添ってくれるからだろう。

ここでの生活は、常に雄大な自然と地続きになっている。日常の風景の向こうにはいつも北アルプスの稜線があり、季節の移ろいを風の匂いが教えてくれる。少し頭を空っぽにしたいくなれば、車のキーを回して1時間。それだけで、見渡す限りの高山帯の静寂に身を置くことができる。大自然が非日常のイベントとしてではなく、日常の延長線上で待っている。このシームレスな距離感は、松本だからこそ得られる贅沢だ。

そして山から下りて街角に目を向ければ、今度はしっとりとした歴史の気配が包み込んでくれる。松本城を中心とした街並みは、先人たちが遺した景観をただの「観光用の保存物」としてではなく、今の暮らしの背景として美しく機能させている。古い蔵や風情ある小道が、日々の買い物や散歩の風景に当たり前のように溶け込んでいるのを見るたび、この街が大切に重ねてきた時間が、日常に心地よい奥行きを与えてくれているのを感じる。街を行き交う人の波も、私にはとても心地よく映る。すれ違う人の顔がちゃんと見えるくらいの穏やかな活気があり、決して孤独ではない。かといって、人に押し流されるような息苦しさとも無縁だ。自分のパーソナルスペースを保ちながら、街の確かな鼓動や人の気配を温かく感じることができる。

圧倒的な自然のスケールと、歴史が息づく美しい街並み。そして、人の体温が感じられる等身大の暮らし。それらがごく自然に共存している松本という街の懐の深さが、私はたまらなく好きなのだ。





買い物客でにぎわうイオンモールの大通りからほんの数分歩くだけで、視界いっぱい空が広がり、薄川がゆったりと流れている。商業施設のそばとは思えないほど穏やかで雄大な景色が、そこには当たり前のようにある。

薄川は「いつもの日常」の一部だった。部活のない放課後、勉強に飽きたテスト期間の午後。道沿いに自転車を停めて、友達と川で水遊びをしたり、土手に座って他愛もない話をしたりした。風に乗ってとなりのグラウンドから野球部の練習する音が聞こえてくる。「今日もみんな頑張ってるなあ」なんて思いながら眺めた川の流れも、些細なことだけど今でも大切な思い出の一つである。

春には桜が咲き、夏には入道雲が広い空に浮かぶ。夕暮れには空も川も赤くなって、季節が変わるごとに景色も少しずつ変わっていく。その中を犬の散歩をする人やランニングを楽しむ人、高校生が自転車で帰っていく姿が、いつも自然に溶け込んでいた。

大学生になって学校と家との往復ばかりになった今、あの景色は決して当たり前ではなかったのだと気づく。街の便利さと豊かな自然、そして人々の日常が、こんなにも近い距離で重なり合う場所はそう多くない。薄川は私にとって、そんな思い出を引き出して、気持ちを落ち着けてくれる、大切な場所である。



松本駅の二階には、私が少し特別に感じている場所がある。ストリートピアノだ。毎日利用する駅で、電車を待つわずかな時間に、私は時々その鍵盤に触れる。もともとは、発表会前に人前で弾くことに慣れるために弾き始めたのがきっかけだった。しかし、今ではこのピアノは、私にとってもっと身近な存在になっている。

バッハを弾く。少し人に話すのをためらうような、自分だけの「好き」だと思っていた。だからこそ、ある日、通りすがりの男性に「バッハですか。いいですね」と声をかけられた時、自分の大切にしているものが誰かに届いたようで嬉しかった。

松本が「楽都」と呼ばれる街であるから、音楽は特別な舞台だけでなく、駅のような普段の生活の中にも溶け込んでいるのかもしれない。足を止めて聴く人、何気なく通り過ぎる人。その中で、ピアノの音が見知らぬ人同士をゆるやかにつないでいく様子に、私は松本らしさを感じる。

駅の片隅の一台のピアノのように、何気ない日常の中にある小さな発見が、私にとって松本という街を特別なものにしている。



私が松本に魅力を感じる場所は、やはり「松本城」だろう。理由は簡単だ。韓国人である私が最も外国であることを実感できる場所だからだ。

韓国にも「城」と呼ばれるものは存在するが、ヨーロッパの城（Castle）に対比されるような防御施設ではない。向こうに見えるのは、標高3,000m級の山々が連なる山脈だ。近隣の地帯自体の標高が高いとはいえ、自然としても韓国では見られない山脈だ。だから、このように高く積み上げられた松本城を眺めていると、日本は地理的にも文化的にも近い分、より遠く見えるという印象をいつも受ける。

私はいつも、このような外国ならではの体験を夢見てきた。この松本城を訪れるたび、「ああ、私は本当に外国にいるんだな」「これからはこの風景に見飽きる瞬間も来るだろう」といった考えが次々と浮かんでくる。私にとって松本城とその風景は、どうかこのときめきが色褪せないでほしいという願いが込められた場所だ。

自然と都市が 調和するまち、松本

この写真は、松本駅近くの女鳥羽川沿いから撮影しました。大学から駅まで歩いて帰るとき、私は少し遠回りをしてでも、この川沿いの道を歩くことがあります。駅周辺にはお店や交通機関がそろっていて便利ですが、少し歩くだけで川のせせらぎや緑を感じられ、気持ちが自然と落ち着くからです。

写真の奥には、松本の街並みに溶け込む時計博物館が見えます。歴史ある建物と現代的な街並みが違和感なく共存している景色も、松本らしい魅力の一つだと感じます。

春には新緑、夏には青空と木々の鮮やかな緑、秋には色づく街路樹、冬には澄んだ空気と雪化粧した北アルプス。季節が変わるたびに同じ道でも違った景色に出会えるため、何度歩いても飽きることがありません。

都会の便利さと自然の豊かさ、その両方を日常の中で感じられること。それが、私が思う松本の一番の魅力です。





女鳥羽川は私の松本生活において生活の一部となっており、通勤、通学で毎日、川沿いを通るのはもちろん、日課のランニングのときにも、休日に街に遊びに行くときにもよく通ります。

こうして毎日通っていると女鳥羽川は時間帯、曜日、日にちなどによって私たちにいろいろな顔を見せてくれることに気づきました。

例えば、平日の早朝や夜には車どおりが少なく、虫が鳴く静かな川沿いが、ランニングや散歩をする人達のコースとして、日中は老若男女問わず、多くの人の通り道として、みんなの生活の一部としての顔が見れます。

休日には時間帯に関わらずいろんな人が川沿いで休んでいたり、遊んでいたり、休日中にはなわて通りや中町通りで買い物や観光を楽しんだ人たちが一休みする場所になっていたり、避暑として水遊びを楽しむ人たちがいたり、平日の疲れをとる人たちのための憩いの場としての顔が見れます。

まだ3か月しか女鳥羽川を見れていませんが、バイト後や学校から帰るときの疲れたときに、少し橋の上でその川の流れを見ていると、その度に自分の心を洗い流してくれます。

こうやって生活の一部として、また写真のような美しい風景をして私たちの心を落ち着けてくれる女鳥羽川が私は大好きです。



松本に来て一人暮らしを始めてから数か月。まず感じたのが、これから4年間暮らしていくのにちょうどいい環境だった。大学付近には個人経営の飲食店やスーパーが並び、日常的に立ち寄れる場所があるのが良い。さらに、駅付近では歴史を感じる街並みがみられ、大通りや商店街は歩くだけでも楽しい街だなと感じられる。

しかし、私が特に魅力的だなと思うのが、この便利でかつ歴史を感じる街並みの中に、当たり前のように緑があることだ。ある日、大明町通りを歩いて女鳥羽川沿いまで散歩をしていると、木々の緑が川の流れと調和していて、思わず足を止めた。日常の買い物や大学への行き帰り道の途中でも、このような景色に出会うことがあり、自然と足を止めたくなる。松本城の天守から景色を眺めたときも、市街地の中に緑の広がっていることが分かり、この印象はより強くなった。歩いていて木を見つけると休憩したくなったり、日常的に見かけることで四季の変化を感じることができる。無理なく自然と街の機能が共存しているのがこの松本市の魅力だと思っている。



松本市の魅力は、バランスの良さにあると思う。

この写真は、イオンモール松本の夜の風景を撮ったものである。モダンな渡り通路と、お洒落なデザインの建物、そして街の明かり。駅前の賑わいなど、このような現代的な建物がある一方で、そこから少し歩けば、国宝である松本城のような歴史的な建造物や、中町通りのレトロな街並みが広がっている。

夜になれば、写真のような街灯りや現代的な商業施設を楽しむことが出来、都市としての優れた利便性を実感する。一方で、朝の澄んだ空気の中で街を歩けば、豊かな自然が日常に寄り添っていることを肌で実感する。歴史ある城下町の雰囲気、都市のスマートな快適さ、そして安心感のある落ち着いた田舎の開放感。それらがバランスよく配置されているのが、松本市のいいところだと思う。過度に都会すぎず、素朴すぎないこの適度な距離感が、私の生活にとってもフィットしている



松本は散歩が楽しい。古い町の区画そのままの街並みで昭和以前の建物も多く残る街だから生まれる細く入り組んだ道は、少し不便であるが、散歩のわくわく感を引き立ててくれる。巨木や神社を避けるように急に二股になる道路や、街中に突如として現れる石碑や神社は古い歴史とその歴史を大切にする松本の人のあつい思いが感じられる。駅を中心にどんどんと標高が上がっていくこの町は上のほうまで上がってれば、街を一望できる場所がたくさんある。いろんなビューポイントを探してみてはいかがだろうか。





歴史と美しさが残る松本城

私が思う松本市の魅力は定番であるが王道の松本城である。自分はもともと松本に特別な興味があったわけではなく、大学があるから来たというのが正直な理由だった。だから最初はこの街に対して強い印象もなかったし国宝である松本城についてなにも知らなかった。しかし、松本に初めて来たその日の夜にたまたま松本城の前を通ったとき、イベントが行われておりライトアップされた姿が目に入った。夜の落ち着いた雰囲気の中で、ライトアップされた城がはっきりと浮かび上がっていて、隣の桜もやわらかい光に照らされていて、城の力強さと桜の美しさがうまく調和している。この景色が想像以上に綺麗で思わず立ち止まって眺めていた。それまで特に何も思っていなかった松本という場所に対して、少し見方が変わった瞬間だった。ただ大学があるだけの街だと思っていたが、こうした景色に出会えたことで、この街にもちゃんと魅力があると感じるようになった。自分の中で印象が変わったきっかけとして、松本城は強く記憶に残っているし、松本市の魅力だと思う。



松本は季節の変化が鮮明に見られる地域です。
春には桜が美しく咲いて花見を見に行き、
夏には女鳥羽川で遊びながら暑さを乗り越え、
秋には涼しい風と綺麗な街並みを楽しみながら夜に散歩、
冬には普段とは違う、白く染まった松本のもう一つの魅力を味わいながら過ごしました。色んな地域を旅して参りましたが、松本ほど素敵な景色を持つ場所はありませんでした。

自転車が多いため、バイクがあまり見られない松本は落ち着いた雰囲気とともに、空気が住んでいることを感じられます。喘息がありましたが、松本に引っ越ししてきてもう薬を飲まなくても元気になりました。



松本には風景や自然だけではなく、安い物価、新鮮で美味しい食材料、伝統と現代が一緒に溶け込んでいて、観光地としても、生活圏としても相応しいと考えられます。

外国人のため、公共の場には様々な言語で書いており、住民の方々のとても優しい、車より人が優先になる心豊かな場所です。

松本の魅力発見ゼミ

私が松本の中で好きな場所は女鳥羽川沿いのベンチです。信州大学に入学してからこのベンチでたくさんの思い出ができました。朝から友達と近所のパン屋さんに行き、このベンチに座って食べたり、空きコマに友達と一緒にお花を摘みに行ったり、夜はみんなで集まってピザパーティーをしたりしました。今思い返して知ると、いろんな人との出会いや大切な日常の中にはいつもこのベンチがありました。このベンチに座ると春には桜が見渡せて、初夏にかけては蛍を見ることができます。また、川の流れる音がよく聴こえ、星空を見渡すこともできます。私の地元は高い建築物に囲まれ、夜でも空が明るく星を見ることができませんでした。そんな都会で育った私にとって松本は、自然を身近に感じて暮らせる最高の居場所になりました。この三カ月間のたくさんの思い出の中にこのベンチがありました。あと残り半年ほどとなってしまうしましたが、これからもこのベンチとともにたくさんの思い出を作っていきたいです。



私が感じる松本の大きな魅力、それは「あがたの森公園」にある。
日差しの強い暑い日であってもこの公園に一步踏み入れるだけで、空気が変わり心地よい涼しさに包まれる。
見上げれば、高くそびえたつヒマラヤスギの木々が木漏れ日を落とし、静かに人々を迎え入れてくれる。
またイベントにより多くの人々でにぎわう光景は、いつもの穏やかさとは対照的で、心を自然と弾ませる。
旧制松本高等学校の校舎や並木道など、歴史の面影を今に残すこの場所は、過去と現在が心地よく調和している。
多様な顔を持ち、訪れるたびに気持ちを落ち着かせ、温かい心地よさを与えてくれるあがたの森公園。
そんな特別な場所があるからこそ、私はこの松本という街に魅力を感じずにはいられない。







私が見つけた松本の魅力は、きれいに整備された道から一歩入ると「ここ通れるのかな？」と思わず足を止めてしまうような細い小道や路地が現れるところです。少し勇気を出さないといけないような建物の間の道や、何度も訪れているのに今まで見えていなかった道。20年前に開発された住宅街で育った私にとって、こうした路地を見つけると好奇心をくすぐられ、足を踏み入れてしまいます。

その道の先でそこにしかない個性あふれる素敵なお店と偶然出会えたり、すぐそばを流れる川の音や豊かな自然や松本が長い時をかけて築いてきた歴史に触れられたりします。現代的な街の便利さや暮らしやすさがありつつも、昔ながらの建物や暮らしの形をそのまま残しているからこそ、街に様々な表情が見られ、街のあたたかみやおもしろさが生まれるのだと思います。

同じような道ばかりだった地元とは違い、普段の日常の中に「歩く楽しさ」や「新たな出会い」がある、そんな松本の街が私は大好きです。

4月に留学生の友達と一緒にお花見に行きました。その日はまだ日が長かったので、お花見の後も、もっと散歩したいと思い、話をしながら浅間温泉のほうまで歩きました。



松本野球スタジアムの近くで、とても美しい景色に出会いました。ちょうど海外で「ゴールデンアワー」と呼ばれる時間帯で、日の入り前の柔らかく温かい光が満開の桜を照らしていました。金色の光と桜の組み合わせは本当に美しく、その景色にしばらく見とれてしまいました。

さらに、その近くには、ポーランドでよく見かけるプレハブ造りの団地によく似た建物がありました。四角くてシンプルな建物ですが、私にとっては決して寂しい印象ではありません。近所の人とのつながりが感じられ、温かい雰囲気のある場所を思い出します。その景色を見た瞬間、ふるさとのことを思い出して少しホームシックになりました。そして、夕日の金色の光を見てみると、子どもの頃に夏休みを祖母の家がある田舎で過ごした思い出があり、とても懐かしい気持ちになりました。

松本には、美しい景色だけでなく、人の心を温かい思い出へと導いてくれる魅力があると思います。



だから、浅間温泉へ向かうあの道は、今では私の一番好きなところになりました。



私が好きな松本のスポットは女鳥羽川です。4月の大学入学当初、バスで帰る道を何気なく歩いて帰ったことがあります。その時、橋の上から見た女鳥羽川と桜の風景がとても心に残っています。穏やかな川の流れと満開の桜が一面に咲いていて、その背景に山々が連なっている風景にとっても新鮮さを感じました。私も長野県出身なのですが、このような風景はみたことがなく、松本ならではの草花と水の融合という魅力を感じました。大学生活が始まったばかりで不安もありましたが、この景色を見たことで松本での生活を楽しもうという前向きな気持ちになれました。松本市民の方にとっても大切な場所である女鳥羽川が私にとっても特別な場所になっています。4月だけでなく7月になった今も時々歩くことがあります。4月とは一風変わり、晴天の中に木々が青々とし、川面がきらきら輝いていました。季節ごとに全く違った発見があり、いつ訪れても飽きることのない場所の1つです。ぜひ一度女鳥羽川を歩き、好きな風景を探してみたいです。



私の感じる松本の魅力は駅からこまき道路の坂を登った先に見える夜景だ。初めてこの坂を自転車で登った時、この坂のつらさに打ち砕かれそうになっている友達を応援しながら登っていたためあまりしんどさを感じずに登れていた。しかし、バイト終わりに一人で登った際に、誰もいない孤独感によってとてもじゃないが坂の頂上まで登りきることが出来なかった。自転車を降りた後、ふと後ろを振り返ってみるとそこには街の明かりが静かに広がり、疲れや孤独感を忘れさせてくれるような夜景があった。普段も使う道路だったので何度かこの景色を見たことはあるが、この夜景に感動を味わったのは初めてのことだった。ただその風景を眺めるだけでは得られない感動があり、この坂を登るしんどさを味わったからこそ、この夜景の美しさに気づくことが出来たのだ。





信州大学西門付近にある歩道橋から見える景色が好きです。

歩道橋の下では、車や自転車、歩行者がごうごう、ざわざわと行きかっています。しかし、橋の上に立つとまるで別の場所にいるような、街から切り離されたような静けさを感じます。

広い青空の下には、さまざまな種類の木々が青々と生い茂っています。遠くには山が広がり、その中に住宅地が見えることから、自然と暮らしが共にある松本市らしい風景だと感じます。そんな歩道橋の上で風を感じながら目を閉じると、葉の擦れるさわさわとした音、さえずる鳥の声、木々の匂いに気づくことができ、短い時間でも松本の自然を全身で感じられる大切な場所です。

大学西門の向かいにあるデイリーヤマザキへ向かうため、私はよくこの道を通ります。その途中で、吹奏楽団の練習の音や大学生の声が遠くから聞こえてきます。吹奏楽団に入っている私はみんなの音を聴きながらも少し立ち止まって、日常から離れて自然を感じることができるのです。

便利な場所へ向かう途中に、自然の温かさを感じられる。そんな安心感を与えてくれるこの景色を、私はとても気に入っています。

私が思う松本市の魅力は個人経営店の多さである。松本市の街並みを歩くと1番に目に入るのは北アルプスの山だが、2番目に目に入るのは個人経営店だ。信州大学近辺はもちろん、松本城付近や松本駅近くを見渡すと他の地域よりも明らかに多い個人経営店がある。私は個人経営の飲食店が好きだ。その理由は人の温かさを感じることができるからだ。店主の温かいおもてなしは私の心を満たし、信州の地元の特産品を活かした料理は私の胃袋を満たしてくれる。またこういった場所は地元の人たちの交流の場になる。地域の人たちとの交友関係を深めることで生活を豊かなものに変えてくれる。だから私はそんな体験ができる個人経営の飲食店が多い松本市に住むことができて幸せに思う。



松本で好きな場所は信州大学へ向かう通学路だ。この道の近くには幼稚園や小学校、中学校があり、朝7時半ごろになると登校する子どもたちでにぎわう。友達や親と楽しそうに話しながら歩く子や、元気に挨拶をする子の姿が見られ、朝ならではの活気に包まれる。

子どもたちの声が響くと、街全体が明るく、生き生きとした雰囲気になる。

私は早起きが苦手で、予定がない日は9時ごろまで寝ていることが多いため、この景色を見ることができるのは朝早くから予定がある日だけだ。そのため、この通学路の朝の風景は特別なものである。子どもたちが朝から頑張っている姿を見ると「早起きしてよかったな」と思えるし、「今日も一日頑張ろう」という前向きな気持ちになれる。

また、子どもたちと挨拶を交わす地域の方々の姿を見ると、地域全体で子どもたちを見守る街の温かさを実感できる。

この通学路は、松本の温かい街の雰囲気や人と人とのつながりを感じられる場所である。私にとって、ここは一日の始まりに元気と前向きな気持ちを与えてくれる、かけがえのない場所である。



私が感じる松本市の最大の魅力は、豊かな自然と歴史的な街並みが日常と地続きになっている点だ。松本は晴天率が高く乾燥した気候で、晴れた日の朝にベランダから街の奥に見える大きな山々を見るととても心地よい。晴れの過ごしやすい日が多いことで景色がきれいに見えるし、街がより魅力的に見えると思う。さらには自転車を10分漕ぐだけで松本城や旧開智学校へ行くことができる。そしてその古い歴史を守るだけでなく、それらの景観とともにクラフトフェアが毎年行われたり、広場でマルシェなどの出店イベントが頻繁に行われたりしていて、松本城の近くまで行くと松本の活気を感じることができる。松本市の特徴として松本城や豊かな自然などの分かりやすい「観光地」としての魅力を思い浮かべがちだが、松本市の魅力の本質はそれらが生活の中に溶け込んでいることではないだろうか。





松本市の魅力は、「生活のすぐそばに綺麗な水があること」であると考えます。市内には女鳥羽川や薄川、奈良井川などの川が流れ、少し足を延ばせば北アルプスを見ることができる。このような自然が特別な場所ではなく、日常の風景として存在していることが松本市ならではの魅力である。信州大学のすぐ近くを流れる女鳥羽川は昼間は日光が水面に当たってキラキラしており、自転車で川の近くを通るだけでいい気分になる。また、夜には川の音と風が吹いている中で、星を眺めながら河川敷で寝転んで友人と話していると、気づけば何時間も経っていて、とても幸せになることができる。さらに、市内には国宝松本城や縄手通り、中町通りなど歴史を感じられる場所も多く、その周辺にも井戸や湧水が点在している。歴史ある町並みを歩きながら、澄んだ水に触れられることは、松本市ならではの風景である。川や井戸として水場が生活の中に存在していることが、私が考える松本市最大の魅力である。

受験で疲れ切っていた私の心は惹かれた、このナワテ横丁の景色に。
帰り道、暗い中ひと際目立っていたナワテ横丁に釘付けになっていた。
オレンジ色のネオンライトが幻想的で、昭和レトロな雰囲気が漂っていた。
勢いで横丁に入った。居酒屋で酒を飲んで楽しそうに話している人たちの声が聞こえた。路上に座って世間話をしている姿が見えた。ありのままの自分をさらけ出しながらお互いに酒を交わしている様子を見て、人の繋がりを感じたのと同時に大人への憧れも抱いた。
受験勉強で心苦しさを感じていた私にとって、まさに理想の場所だった。
私はまだ、居酒屋に入ってお酒を飲むことはできない。だけど、二十歳になってお酒が飲めるようになったら、私もお店に入って素の姿で色んな人と話をして、あの頃の夢を叶えたい。



松本市に来て一番感動したのは、大学のキャンパスや街のどこからでも北アルプスの山々が見えることです。朝の通学路や放課後の帰り道、ふと目をやると美しい連峰が広がっていて、それだけで心がすーっと軽くなります。歴史ある国宝・松本城の城下町でありながら、レトロでおしゃれなカフェや古着屋さんが多く、休日のお散歩やカフェ巡りにも困りません。中町通りや縄手通りを歩けば、城下町の風情と若者向けの新しい文化が混ざり合った、この街ならではの雰囲気を味わえます。何より、清らかな空気とおいしい水、そして街の人たちの温かさに包まれて過ごす時間はとても贅沢です。都会の喧騒から少し離れ、自分たちのペースで学び、過ごすことができる松本市は、大学生という大切な時間を過ごすのに最高の場所だと実感しています。